

第2章 河川の現況と課題

第1節 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

烏川圏域における過去の大きな災害は、昭和10年9月台風による洪水を始め、昭和22年のカスリーン台風でも大災害に見舞われた。近年では昭和56年、57年、平成9年、10年にも床上浸水を伴う水害が発生している。

烏川本川の本格的な改修工事は、下流部において昭和8年より国による整備が始まった。昭和10年の洪水で上流部（榛名白川合流部上流）が大規模な被害を受けたため、その復旧事業を下流部改修事業に併せて国に委託し工事が行われた。現在では、平成2年度から倉瀨ダム建設事業を実施している。

また、井野川においては、カスリン台風で被害を受けたことから昭和26年に烏川合流点から整備が行われ、昭和45年まで工事が行われた。

その他支川については、主に昭和56年、57年の洪水を契機に実施され、小堀川、榛名白川、里見川、向井川、藤川、早瀬川、唐沢川、猿府川、天王川、正観寺川、染谷川、道木堀川、衣沢川、井戸沢川などが完成し、天神川、東谷川、牛池川、粕川、粕沢川、滝川などは現在も事業実施中である。

このような治水施設の整備により大きな水害は減少しているものの、中小河川等の氾濫及び内水等による被害は相変わらず発生している状況である。（表 - 2.1）

表 - 2.1 烏川圏域の災害発生状況

発生日月	原因	被害状況	備考
S10.9.24 ~ 9.25	台風	流出倒壊 333戸、半壊 2,015戸、 浸水 2,358戸	烏川圏域内
S22.9.14 ~ 9.15	カスリーン台風	流出倒壊 50戸、半壊 40戸、 床上浸水 2,578戸、床下浸水 6,406戸	烏川圏域内
S41.6.28 ~ 9.25	台風4・26号	床上浸水 112戸、床下浸水 852戸	烏川、滝川
S43.6.21	雷雨	床下浸水 124戸	井野川、牛池川、染谷川、 大清水川、天王川
S45.8.3 ~ 8.7	豪雨	床上浸水 55戸、床下浸水 2,024戸	烏川
S50.6.3 ~ 7.18	豪雨	床下浸水 5戸	牛池川
S56.8.21 ~ 8.23	台風15号	床上浸水 74戸、床下浸水 956戸	烏川圏域内
S57.7.5 ~ 9.13	台風10号	床上浸水 402戸、床下浸水 2,633戸	烏川圏域内
S61.8.11 ~ 8.19	豪雨	床上浸水 4戸、床下浸水 30戸	染谷川、滝川
S62.7.11 ~ 8.20	台風5号、豪雨	床上浸水 1戸、床下浸水 50戸	烏川、里見川、向井川、 滝川、井野川、染谷川
H1.7.24 ~ 8.28	豪雨、台風14・17号	床上浸水 2戸、床下浸水 101戸	烏川
H9.9.11	豪雨	床上浸水 11戸、床下浸水 40戸	染谷川、正観寺川
H10.7.21 ~ 7.26	豪雨	床上浸水 1戸、床下浸水 4戸	早瀬川

被害は水害統計（国土交通省河川局）。S10・S22・S56・S57は群馬県資料を使用。

第2節 河川の利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

烏川圏域の河川の水利用は、古くから農業用水として利用されている。烏川本川ではかんがい面積が約1,800ha、総取水量が最大約10m³/sとなっている。

水道用水については、古くから高崎市が烏川から取水していたが、安定水源の確保と水質等の課題を抱える地下水から表流水への転換のため、倉渕ダム建設事業に参画している。

また、発電については、現在、稼働中で県内最古となる室田発電所が榛名町にある。

表 - 2.2 近年の高崎市水道における湯水被害状況

発生年月日	取水制限等の状況
S62.6.16～8.25	取水制限（最大30%）：47日、減圧給水（最大30%）：25日
H 2.7. 7～9. 5	取水制限（最大30%）：18日、減圧給水（最大30%）： 8日
H 6.7. 2～9.19	取水制限（最大30%）：39日、減圧給水（最大30%）：25日
H 8.8.16～9.25	取水制限（最大30%）：18日、減圧給水（最大30%）： 8日

第3節 河川環境について

烏川の上流部は豊かな自然環境が残る地域となっている。この地域を流れる河川は山間部の急流河川で天然河岸となっており、イワナ、ヤマメ、カジカ等の魚類が生息している。

本川下流部は、築堤で河幅も広くなって中州や渚が見られ、アユ、ウグイ、オイカワ、コイ、フナ、ドジョウなどが生息しており、本川中下流部に合流する支川は、都市部及び都市近郊の田園地帯を流れる河川の様相を呈しており、本川下流部と同様な魚類が生息している。

河川の水質については、烏川においては森下橋から上流がA類型、その下流がB類型に、また、井野川は早瀬川合流点から上流がB類型、下流がC類型に指定されている。

現状の水質は、井野川を除き環境基準を達成しているが、今後、流域人口の増加などに伴い、更に下水道事業等の進捗による水質の維持向上が期待される。

河川の利用状況については、烏川に隣接して緑地公園、総合グラウンド、井野川にはサイクリングロードなど、人々の憩いの場として広く利用されている。

なお、圏域内の主な河川には漁業権が設定されており、上流地域ではイワナやヤマメを目的とした溪流釣り、下流地域ではアユの友釣りなどが行われ、多くの釣り人で賑わっている。